

#13 心地良さのためのインテリア術②

子どもだって楽しいインテリア

初めて自分の部屋をもらったときの、あの嬉しさを憶えていますか？

子ども心にも、自分のお城という気持ちが膨らんで、好きなポスターを壁にピンナップしたり、大切なオモチャやぬいぐるみなどをここに飾れば素敵だろうかと置き場所を考えたり……。

「自分の物や自分の空間へのこだわり」はすでに幼児期に現れますが、

その時期はちょうど色彩感覚や空間感覚が育つ時期なのです。

そこで今号は、子どもたちにもインテリア・コーディネートに参加させてあげましょうという提案。

インテリアに参加することで子どもは楽しみながら感覚を伸ばせるだけでなく、

「自分の居どころ」への愛着が湧きます。

それは、家族やわが家への愛情を育むことでもあるのです。



インテリアがこころの芽生えは 幼児期から！

「自分の物や自分の空間へのこだわり」が幼児期に出現するのは、ちょうどその頃、好奇心が旺盛でも自分でやってみたい時期だからです。大人になってから色彩感覚や空間感覚を一から身につけるのは大変ですが、幼児期以降なら遊びの延長で本人も楽しみながら学ぶことができます。

それらの能力はやがて、自分の着るものにもこだわるように、より自分らしく飾りたい、しつらえたいというインテリア行為に発展します。

じつは、インテリアで自分らしさを表現することは、芸術的な感性はもろろんのこと、空間認知力や空間構成力など、自己表現の中でも



ほんの一部でも自分がかかわった空間には、子どもでも愛着を抱きます。愛着がある空間に対しては、整理整頓やお片づけ、そうじなど、自発的に取り組みやすいのです。

高度な能力が必要です。ですが、日本の学校ではインテリアについて学ぶ機会がありません。家庭でその素養を習得する絶好の機会が、自分の部屋のインテリア・コーディネートに参加させてあげることなのです。

自分の部屋を自分でインテリアすることで愛着が湧きますから、「もっと整えよう、いつも綺麗にしよう」というお片づけ・整理整頓の意欲・能力も身につけやすくなります。

「勉強しなさい」と言う前に、 親子が対話しやすいインテリア！

でも、せっかく子ども部屋があっても、よくこんな声を耳にします。「勉強はリビングでばかり……」「学習机は荷物置き場みたい……」

実際小学生の70%以上、中学生の約半数がリビングやダイニングで勉強しているという調査データもあります(※)。その理由は「わからないことを尋ねやすい」「さびしくない」「いろいろなお話ができる」「親の皆さんも「目が届くから安心」「宿題などを見てあげやすい」「話しやすい」様子がわかる」という理由を挙げています。

ただ、リビングもダイニングも家族のくつろぎや食事を目的につくられる空間ですから、照明やテーブルの高さなどは学習に適していません。

そこで、たとえばリビングの一角に親子で一緒に利用できるデスクワークスペースやお絵描きできるウォールを設けるというアイデア。家族とコミュニケーションできる場での学習は楽しさや飲びを伴う体験となり、その積み重ねこそが子どもの知性の土台を形成してくれます。

やがて集中して勉強したい、ひとりで思索を深めたい年齢になれば、「自分のお城」での学習時間が自然と増えていくはず。

*積水ハウス 総合住宅研究所「住まいにおける子どもの居どころ調査」(N=469)(2007年)



①親子が対話しやすい「ファミリーセッション」。家事をしながら宿題を見てあげられ、お父さんやお母さんのワークデスク、趣味のデスクとしても活用できます。

②今日あったことを絵や図にして伝えられる「ドラフトウォール(多機能ガラス黒板)」を、家族が集うリビングの壁にいかが？ コミュニケーション力だけでなく、自己表現力も養えます。



①

②